

2016年10月

民俗 — No. 13

けんぱくものしりシート

なんぶ かくどひょう 南部の角土俵



かいせつじん
解説員



これは、江戸時代(1603~1867年)に盛岡藩(南部藩)【※】で「南部相撲」が行われている様子をイメージして作ったお人形よ。

おすもうさん



ハクちゃん



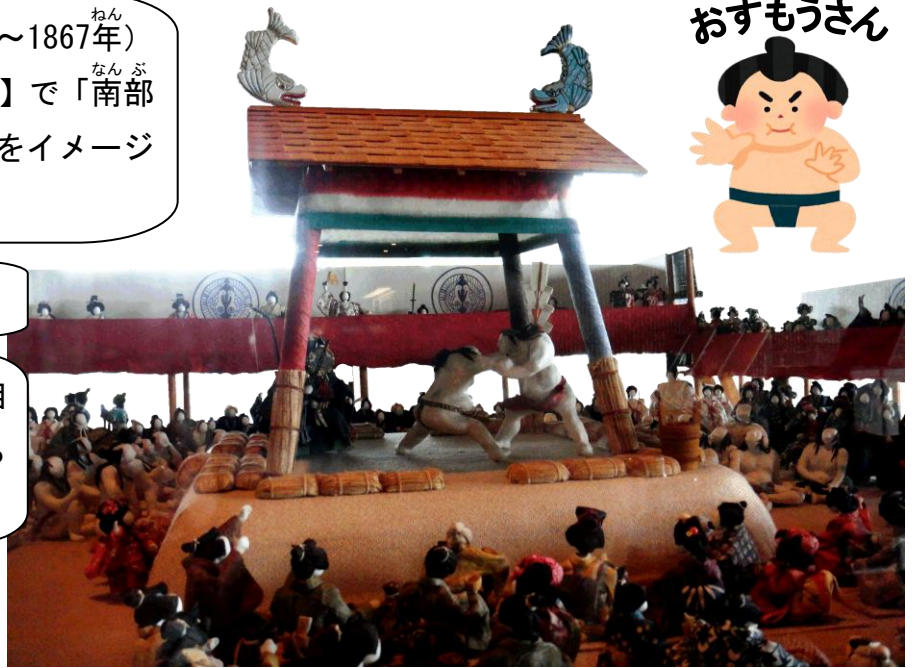
おすもうさん かー!



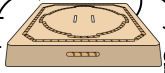
でもこのお人形の相撲は、今のとは少しちがうみたいだね。



どこがちがうかわかるかな?



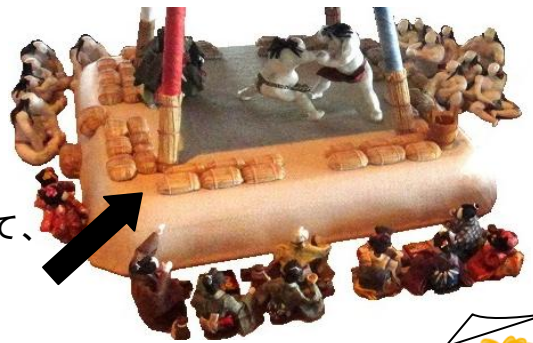
【※ 盛岡藩については、ものしりシート歴史 No. 2『盛岡城』をみてね!】



ぼくが見たときは、丸い輪の中で相撲をしていたよ!



力士(おすもうさん)が勝負をする場所を「土俵」というの。全部で5つに分けられる南部相撲のうち、誰でも見ることができる「遊覧相撲」などの土俵は四角い形をしていることで知られていて、「南部の角土俵」とも呼ばれているのよ。



屋根にお魚がのっているのも気になるなあ……



しろ

あお



それは「鯨」よ。体は魚で頭は虎、尾ひれがいつも空を向いている、想像上の動物で、悪いものを近づけないように守ってくれる神様として大切にされているの。遊覧相撲では屋根の西と東に白と青の鯨をかざるのよ。

にし
西がわ

ひがし
東がわ

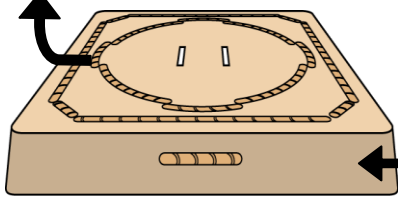


むろまち じだい 室町時代 (1336~1573年) あたりまで、力士たちは土俵ではなく、相撲を見て
 いる人たちの輪の中で勝負をしていました。江戸時代あたりになって、相撲に
 ついての決まりごとができていく中で、四角い土俵が使われるようになり、さらにそ
 の後、どこからでも見やすい丸い形の土俵で勝負をすることが多くなっていったと
 考えられているの。そのような中でも、四角い形のまま使われ続けていた盛岡藩の
 土俵を、他の人たちが珍しがって「南部の角土俵」と呼んだのね。

ちい 小さな俵で囲んだ部分のことを土俵



というよ。この俵の中には
 土や砂が入っているんだ。



土俵

囲まれている部分だけではなく、四角
 く土を盛った部分をあわせて土俵と呼
 ぶこともあるんだよ。

わ ひとの輪



まる



しかく



まる 丸い土俵 だけじゃ
 なかったのかあ……



もりおかはん 盛岡藩では四角い土俵のままだったのはどうしてなの？



相撲の勝ち負けを決めたり取り組みを進めたりする人のことを、
 「行司」といいます。丸い土俵が多く使われるようになって
 からも、盛岡藩では、行司をしていた人たちがそれより前の決まりを
 守って、四角い土俵を使い続けていたの。場所によっては1955(昭
 和30)年ころまで、「南部の角土俵」が残っていたのよ。

ぎょうじ 行司



ずっと大切に守られていたんだね！！

参考 『四角い土俵とチカラビト〜盛岡藩の相撲〜』 岩手県立博物館 2006年
 『ここまで知って大相撲通』 根間弘海 1998年

らいげつ 来月 (11月) の
 けんぱくものしりシートは
 げんせい 現勢・生物-13だよ！
 おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>